

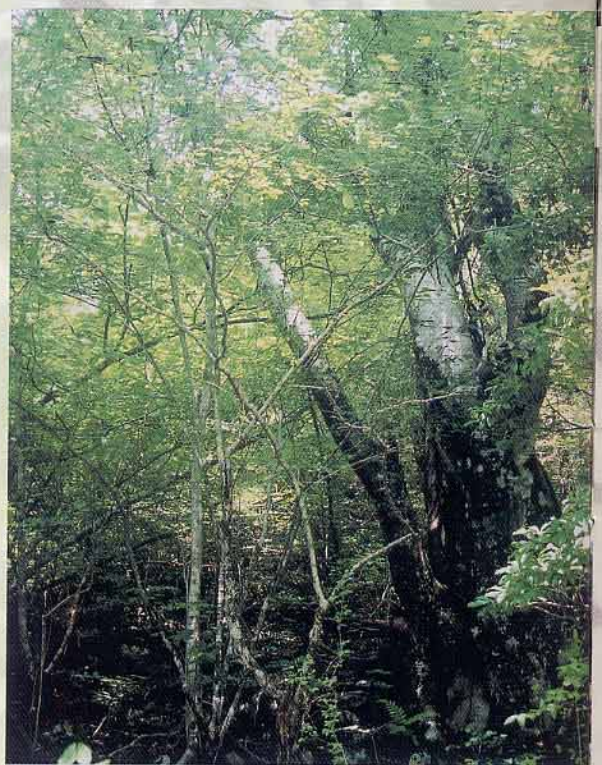
犬ヶ岳・経読岳山系の自然林



尾根筋をおおうブナ林



ツクシシャクナゲの茂るブナ林



溪谷植物群落

ブナ群落

この山系を代表する自然林で、尾根筋をおおっています。九州のブナ林では通常林床にスズダケが生育していますが、ここでは土壌の堆積したところには日本海要素のクマイザサが密生し、岩場に立つブナ林の林床ではツクシシャクナゲが優勢です。

谷地形のところにはシオジ、アサガラ、イタヤカエデ、ケヤキ、チドリノキ、ジュウモンジシダなどが特有の群落をつくっています。

雁股山から経読岳，犬ヶ岳，英彦山と東から西へ屏風のように連なる峰々は大分県と福岡県の県境となっています。ことに犬ヶ岳から英彦山の尾根筋は修験者の修行の場となるほど起伏の激しい地形となっています。以前は山腹から尾根筋までおおっていたと思われる自然林も尾根の南側になる大分県側ではスギ・ヒノキの植林がすすんで広い面積を占め，今では1000メートルを超える尾根部分と岩場や急峻地形のところに，かつての様相を偲ばせるわずかな自然林が残るのみとなりました。



ヒノキ・ツクシ・シャクナゲ群落

尾根筋で極度に表土の薄いところではヒノキとシャクナゲが根を下ろし岩場に特有な植物社会を形成しています。



ツガ群落

西南日本に特徴的なツガとハイノキが顕著な群落です。今では、ほとんどが植林地となって、断片が残るに過ぎません。



コナラ群落

一度伐採された後に再生し始めた群落で800メートル以下では常緑樹もたくさん見られます。



アカガシ群落

常緑広葉樹林のなかでも標高の高いところに見られる群落です。植林に不向きな地形だったために残された自然林でしょう。